

ミツワ思考 (Three Rings Method) の特徴

バカの壁を破る。養老猛司氏が著わした「バカの壁」は、己が希求した目標を得られないとき、立ちはだかる障害と要約できそうである。

ミツワ思考はもの事の<重課実践「3つの要」>発見と、それらを<意味連環>させて体系(物語)化する構造となっている。そして表現は6つの<象徴表札>を展開しているので多面的な認識を増殖させることも可能である。

また、物語化する時は<中心転換>の技法が使われるため、しばし創造的な概念を産出することもある。さらに、物語は象徴的に表現されるため思考の過程が透視でき、異なる考え方を<比較鑑賞>できるため、他人による学習が容易であり思考の伝承もいとも簡単である。

最後に、この思考法は3つの円による単純明快なデザインのため、目的達成のため<潜在意識に刻印>が可能でアフターメーションの強化にも充分機能する。

バカの壁はミツワ思考の機能、すなわち<1>重課実践、<2>中心転換、<3>意味連環、<4>比較鑑賞、<5>象徴展開、<6>潜在刻印の6つを統合して打ち破る。だから、夢や希望の実現には実践的・創造的なミツワ思考法を活用することで、個人の智力を高めつつ素晴らしい成果が得られる確率をより増大させることが出来る。